



内閣府認定 公益社団法人
大正琴協会

Taisho-koto



概要

■名 称 公益社団法人大正琴協会

■会員区分

正会員	大正琴の普及活動に従事する者であって、この法人の事業に賛同して入会した個人
準会員	この法人の事業を援助するために入会した個人
賛助会員	この法人の事業を賛助するために入会した法人又は団体
名誉会員	この法人に特に功労のあった者で総会の議決をもって推薦された者

■正会員数 1,837名(令和7年6月末現在)

■賛助会員数 8法人・団体

■目的 当法人は、大正琴による生涯学習活動を通じて、大正琴音楽の次世代への伝承と芸術文化の振興に寄与することを目的としています。

■沿革 平成5年5月27日、文部省(現文部科学省)の許可により「社団法人大正琴協会」として設立。平成20年の公益法人制度改革に伴い、平成25年4月1日に内閣府の認定により「公益社団法人大正琴協会」へ移行。

■主な事業

1. 大正琴音楽文化の小・中・高等学校等を対象とした次世代継承事業
 - (1)大正琴寄贈事業
 - (2)大正琴講師派遣事業
 - (3)全国子供大正琴コンクールの開催
2. 大正琴による生涯学習活動と大正琴音楽文化の発信事業
 - (1)大正琴演奏会の開催
3. その他この法人の目的を達成するために必要な事業
 - (1)功労者表彰事業
 - (2)機関紙・協会案内等出版物の発行
 - (3)ホームページによる情報発信

■役員

役職名	氏名	職歴等
理事長	北林 篤	琴伝流大正琴全国普及会 会長 (有)日本バイオリン研究所大正琴全国普及会 代表取締役
副理事長	鈴木 禮子	琴城流大正琴振興会 会長 (株)鈴木音楽産業 代表取締役社長
常務理事	藤澤 賢治	琴伝流大正琴全国普及会 総本部長
常務理事	竹森 雅裕	琴城流大正琴振興会 運営理事 鈴木楽器販売(株) 生涯学習課
常務理事	中村 敏裕	琴城流大正琴振興会 管理部長 (株)鈴木音楽産業 生涯学習課 課長
常務理事	米山 直希	(有)日本バイオリン研究所大正琴全国普及会 主任
理事	福留 強	聖徳大学 名誉教授 元文部省 生涯学習局 社会教育官
理事	金子 敦子	名古屋芸術大学 元教授

役職名	氏名	職歴等
理事	山崎 照登	琴伝流大正琴全国普及会 上席本部師範
理事	寄田 恭正	琴城流大正琴振興会 地区担当理事 鈴木楽器販売(株) 執行役員生涯学習部部長
理事	秋山 清志	(株)カメラワーク 代表取締役顧問
理事	今田 晴義	(株)ステージ・ループ 代表取締役社長
理事	遠藤 重雄	新潟県幼児音楽指導研究会 会長
監事	遠島 敏行	公認会計士
監事	丹羽 正夫	司法書士兼行政書士

※役員はすべて非常勤
※令和7年6月現在

大正琴の歴史

名古屋在住の森田吾郎(本名川口仁三郎)氏が、二弦琴にタイプライターの構造を組み合わせて発明し、1912年(大正元年)9月9日に発売した楽器が大正琴です。

当時の新聞には大正琴の広告がたびたび掲載され、数字譜による演奏の手軽さもあって、徐々に大正琴が日本中に広がっていきました。

昭和10年頃からは大正琴の世界にも戦争の足音が暗い影を落とし、暫く大正琴の音色が街から消えましたが、昭和34年には古賀政男氏が自ら大正琴を演奏した「人生劇場」(作詞:佐藤惣之助、作曲:古賀政男、歌:村田英雄)で、再び人々の心に大正琴の灯がともりました。

そして昭和50年代には従来のソプラノ音域の大正琴に加え、アルト音域、テナー音域、ベース音域の大正琴が開発され、大正琴は一人で弾く楽器からグループで合奏を楽しめる楽器に大きく変貌を遂げ、愛好者が50万人とも100万人ともいわれる最もポピュラーな楽器となり今日に至っています。

大正琴は2011年(平成23年)に誕生100周年を迎える。これから多くの人々が大正琴を時代に合ったスタイルに進化させ、他の楽器に見られない独特的な音楽文化を創造し、いつまでも人々の心に優しい音色を奏で続けることでしょう。

<大正琴の歴史年表>

年	出来事
1912年(大正元年)	名古屋の森田吾郎氏により大正琴が誕生
1925年頃(昭和元年頃)	主に東南アジア方面への輸出が盛んにおこなわれる
1940年頃(昭和15年頃)	戦争による大正琴ブームの衰退
1959年(昭和34年)	「人生劇場」ヒットにより大正琴ブームの再来
1980年頃(昭和55年頃)	大正琴アンサンブル(グループ演奏)時代到来
2011年(平成23年)	大正琴誕生100周年
2011年(平成23年)	「大正琴の日」制定(毎年9月9日)

<大正琴発明のヒントとなった二弦琴とタイプライター>



■二弦琴

■ タイプライター
ボタンの構造はタイプライターがヒントになりました。



■教本
大正時代の大正琴教本

<大正琴発売を告げる新聞広告>

新樂器的
大正琴は!!! 生れたり
店舗
柏屋惣太郎
文星堂書店
定價
一石五斗
明治三十一年
名古屋本工製
『大正琴の世界』金子敦子著より

『名古屋新聞』大正元年11月10日
『大正琴の世界』金子敦子著より

事 業 実 績

■演 奏 活 動

年度	定期演奏会	国民文化祭「大正琴の祭典」・ 全国子供大正琴コンクール		全国生涯学習フェスティバル
H5(1993年)	愛知県芸術劇場(愛知県)			愛知県芸術劇場(愛知県)
H6(1994年)	愛知県芸術劇場(愛知県)	祭	四日市市文化会館(三重県)	富山市公会堂(富山県)
H7(1995年)	NHKホール(東京都)			札幌市教育文化会館(北海道)
H8(1996年)	横浜国際会議場(神奈川県)			福岡市民会館(福岡県)
H9(1997年)	神戸文化ホール(兵庫県)			新潟テルサ(新潟県)
H10(1998年)	アクシティ浜松(静岡県)			神戸文化ホール(兵庫県)
H11(1999年)	岡山シンフォニーホール(岡山県)			広島国際会議場(広島県)
H12(2000年)	愛媛県県民文化会館(愛媛県)	祭	三次市文化会館(広島県)	四日市市文化会館(三重県)
H13(2001年)	中野サンプラザ(東京都)			山形県県民会館(山形県)
H14(2002年)	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール(滋賀県)			石川厚生年金会館(石川県)
H15(2003年)	名古屋市民会館(愛知県)※TV放送			沖縄コンベンションセンター(沖縄県)
H16(2004年)	アクシティ浜松(静岡県)			愛媛県県民文化会館(愛媛県)
H17(2005年)	宮崎シーガイア(宮崎県)			鳥取県立倉吉未来中心(鳥取県)
H18(2006年)	神奈川県民ホール(神奈川県)			大洗文化センター(茨城県)
H19(2007年)	なら100年会館(奈良県)			岡山市民会館(岡山県)
H20(2008年)	沖縄コンベンションセンター(沖縄県)	祭	ひたちなか市文化会館(茨城県)	福島県文化センター(福島県)
H21(2009年)		祭 祭 コ	アクシティ浜松(静岡県) 浜名湖立体花博会場(静岡県) 名古屋港文化小劇場(愛知県)	大宮ソニックシティ(埼玉県)
H22(2010年)	神奈川県民ホール(神奈川県)	祭 コ	勝央町文化ホール(岡山県) 名古屋中電ホール(愛知県)	高知市文化プラザかるぽーと(高知県) ※全国生涯学習フォーラムとして開催
H23(2011年)	名古屋国際会議場センチュリーホール (愛知県)	祭 コ	城陽市文化パルク城陽(京都府) ウィルあいち(愛知県)	
H24(2012年)	高槻現代劇場(大阪府)	コ	ウィルあいち(愛知県)	
H25(2013年)	静岡市清水文化会館マリナート(静岡県)	コ	ウィルあいち(愛知県)	
H26(2014年)	ふくやま芸術文化ホール(広島県)	コ	ウィルあいち(愛知県)	
H27(2015年)	鎌倉芸術館(神奈川県)	コ	ウィルあいち(愛知県)	
H28(2016年)	名古屋国際会議場センチュリーホール(愛知県)			
		コ	ウィルあいち(愛知県)	
H29(2017年)	會津風雅堂(福島県)	祭 コ	なら100年会館(奈良県)	
H30(2018年)	ホクト文化ホール(長野県)	祭 コ	宇佐市宇佐文化会館ウサノピア(大分県)	
H31/R1(2019年)		祭 コ	長岡リリックホール(新潟県)	
R2(2020年)		コ	コロナ禍のためビデオ開催	
R3(2021年)		祭 祭	宮崎市民文化ホール(宮崎県) 粉河ふるさとセンター(和歌山県)	
R4(2022年)		祭 コ	那霸文化芸術劇場(沖縄県)	
R5(2023年)	名古屋市公会堂(名古屋市)※30周年	祭 コ	金沢市文化ホール(石川県)	
R6(2024年)		祭 コ	長良川国際会議場(岐阜県)	
R7(2025年)		祭 コ	長崎市民会館文化ホール(長崎県)	

祭:「大正琴の祭典」、コ:「全国子供大正琴コンクール」、祭コ「大正琴の祭典」子供の部としてコンクール開催



第 40 回国民文化祭・大正琴の祭典「子供コンクール」



第 40 回国民文化祭・大正琴の祭典「一般の部」

■その他の活動

年度	内容
H9(1997 年)	阪神淡路大震災復興支援兵庫県より表彰
H12(2000 年)	東海豪雨チャリティーコンサート(愛知県)
H14(2002 年)	協会創立 10 周年記念植樹(マレーシア)
H17(2005 年)	「愛・地球博」EXPOコンサート(愛知県)
R5(2023 年)	大正琴協会創立 30 年記念演奏会(愛知県)

■出 版

年度	タイトル
H7 年(1995 年)	大正琴の世界
H9 年(1997 年)	全国における大正琴愛好者団体についての調査報告書
H12 年(2000 年)	大正琴愛好者の大正琴に対する意識調査
H14 年(2002 年)	音楽教育と大正琴
H18 年(2006 年)	大正琴愛好者が好む曲
H20 年(2008 年)	児童・青少年から見た大正琴
H23 年(2011 年)	大正琴資料図録

■学校等への大正琴寄贈と演奏指導

愛好者が使わなくなった大正琴を譲り受け、きれいに再生して全国の学校等へ寄贈し「ものを大切にするこころ」を育てるとともに、子供たちが楽しく大正琴を学べるよう正会員である指導者の派遣を行っています。



そ の 他

■贊 助 会 員

(株)鈴木音樂産業、(有)日本バイオリン研究所大正琴全国普及会、(株)鈴木樂器製作所、鈴木樂器販売(株)、(株)カメラワーク、杉本印刷(株)、(株)ステージ・ループ、サカエ税理士法人、竹内ビジネスマシンズ(株)

■加 盟 団 体(理事会の承認を受けた正会員 10 名以上の団体、正会員数の多い順)

琴伝流、琴城流、琴修会、琴、菊花きらめきの会、大正琴緑の風、昌弦流

<寄附のお願い>

大正琴音楽文化の普及と次世代継承のため、当法人では広く寄附を募っています。公益社団法人への寄附は、所得税や法人税等の寄附金控除の対象となります。詳しくは当法人事務局までお問い合わせください。



『大正琴の日』

大正琴は名古屋の森田吾郎氏が発明し、大正元年（1912年）9月9日の重陽の節句に発売されました。誕生100周年を迎えた平成23年（2011年）に、公益社団法人大正琴協会では、大正琴音楽文化の一層の発展を願い、毎年9月9日を『大正琴の日』と制定し、大正琴が満100歳を迎えた翌年（平成24年）に、『大正琴の日』のロゴマークを公募により決定しました。



<協会マーク>

平成25年の法人の公益化に合わせて、日本生まれの大正琴音楽文化を大切に育み継承していく姿を、掌で大切なものを包み込むようなデザインで表した当協会のマークを定めました。

公益社団法人 大正琴協会

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄一丁目12番6号1104

TEL 052-228-8106 FAX 052-228-8257

ホームページアドレス <http://www.taishokoto.or.jp>
メールアドレス info@taishokoto.or.jp